

## 神奈川県立相模原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

|           |  |            |  |
|-----------|--|------------|--|
| 審議会等名称    | 令和7年度 神奈川県立相模原支援学校 第1回学校運営協議会  |            |  |
| 開催日時      | 令和7年6月10日（火）13:45～16:00  |            |  |
| 開催場所      | 相模原支援学校 実習棟 2階 多目的室  |            |  |
| 出席者       | 学校運営協議会委員7名（1名欠席）、本校職員：事務局12名  |            |  |
| 次回開催予定日   | 令和7年7月25日（火）を予定  |            |  |
| 問合せ先      | 神奈川県立相模原支援学校 副校長 蒲原 泰広<br>電話 042-778-0818 F A X 042-778-4957   |            |  |
| 下欄に掲載するもの | 議事録  | 公開を概要とした理由 |  |
| 審議・会議経過   | <p>事務局）配付資料の確認、委員・事務局の自己紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会長選出、会長・学校長挨拶</li> <li>2 学校運営協議会について、日程、協議内容について副校長より説明</li> <li>3 協議（意見等）</li> </ol> <p>【 学校評価部会 】</p> <p>○校長より、教員の負担偏重を防ぎ、不登校支援・通学支援を重点とした学校目標の説明</p> <p>・委員より以下のご意見をいただいた<br/>⇒昨年度の学校評価が学校目標に反映されていると感じる。</p> <p>○各グループ・学部の目標・取組紹介【教育企画G】</p> <p>☞昨年度までに作成したシラバスをもとに年間計画の見直し<br/>日課表の見直しと改善。地域と連携して地域の皆さんとの行事も考えたい。</p> <p>・委員より以下のご意見をいただいた<br/>⇒個別教育計画の検討の機会を設けることで、教員が保護者のニーズを吸い上げて反映させたり、子ども自身が自分の目標を理解し主体的に取り組めるようになることが望ましい。</p> <p>⇒福祉の現場ではアセスメントを重視しており、教員がどのようにアセスメントを行うかが重要である。特に小・中・高が一体化している学校の特長を活かしてほしい。</p> <p>☞高等部における9月の個別面談では、生徒本人も参加するようにしている。また、学部懇談会には互いの学部の教員が参加して情報を共有している。</p> <p>⇒教室配置プロジェクトは素晴らしく、発達段階に応じて担任がすぐに対応できることがありがたい。さらに、子ども一人ひとりの「好きなこと」に寄り添った教材を作成している点も高く評価できる。</p> |            |  |

### 【地域連携 G】

☞進路先・見学先の充実に向け、校内でも検討を進めている。地域からの相談を校内全体で担うという意識を持つため、担任にも同行してもらう。

・委員より以下のご意見をいただいた

⇒卒業式などに参加し、子どもたちの顔を見て、この会議での話し合いが子どもたちの笑顔につながることを実感できた。読み聞かせにもつながられた。子どもが一人で本を返せるようになることを望む。子どもも職員もお互いに距離感を感じているのではないか。互いを知るための取組が必要ではないか。先生方の負担も大きく、地域の人の力を借りられる場があるとよい。

☞新しい視点を得られた。公民館でできそうなことについて相談してみたい。

⇒支援学校の生徒は地域の人にとって馴染みが少ない存在だが、ごみポスターの取組を通じて「支援学校でこんなことをしているんだ」という声が地域から聞かれ、一緒に協力したいという人も増えてきている。

⇒各機関の方が、自分事として「何かできることはないか」と考えてくれている。

⇒企業は営利を求める面もあるが、今の段階では「大事に育てられた子どもたちをしっかり受け入れる」という意識でいる。個人としてできることもありそう。

⇒巡回相談の現行の申込票は、個別の困りごとの対応に偏りやすい。申込票の見直しが必要ではないか。支援学校の子どもたちが地域に戻るにはどうすればよいか、地域で暮らすためにはどのような力を身につければよいか（共同学習など）、センター的機能をより発揮できるのではないか。

### 【学習支援 G】

☞一人一台端末や一人での移動に力を入れていきたい。通学ボランティアの人数が減っているため、公民館の方にも相談して協力をお願いしたい。

・委員より以下のご意見をいただいた

⇒放課後等デイサービスや就労継続支援 B 型での送迎サービスは、自立の力を奪っている側面もある。短時間でも一人で歩く経験を積み、自立の力を少しずつ獲得してほしい。

⇒公民館は人を抱えているわけではなく、生涯学習の場。地域の困り感を共有して学習できる場をつくりたい。支援学校について知らない人がまだ多いため、まずは知ってもらうことから始める必要がある。

⇒障害や高齢のある人が先生役となり「自分をどうサポートしてもらえると良いか」を伝える学習会の取組が以前話題になった。そのようなアイディアも参考にできるのではないか。

⇒一人一台端末については、子どもたちが使いながら学んでいくことが大切。使う場面を増やし、AI の活用も進めてほしい。

⇒送迎は保護者にとって安心や利便性の面で有難いが、自立への一步を学校と協力して進めたい。PTA 本部役員会では会議内容を共有しているが、一般会員への周知の機会が少ない。どのように巻き込むかを考えていきたい。

- ⇒移動支援では「手をつないで歩く→並んで歩く→みんなと歩く」と段階を意識した練習を行っている。雨の日に傘やカッパを使った歩行練習も取り入れ、公共交通を利用した校外学習にも取り組んでいる。
- ⇒中学部でも「SBを校内バスポイントで降りて昇降口まで歩く」など毎朝練習を継続している。授業や係活動でも一人で移動する経験を積ませている。
- ⇒通勤・通学に向けた自立の進め方や検証方法については、昨年度シラバスを整理し、小中高の取組を明記している。また、個別教育計画にも移動に関する実態を記入している。
- ⇒一人でできることだけが自立ではなく、誰かの力を借りながら移動することも自立の一形態である。移動にこだわるのは、社会参加につながるからであり、目的をはっきりさせることが大事。
- ⇒他校では、子どもが一人で移動する際に教員が常に付き添うことが当たり前になっている場合があるが、それが子どもの自立を妨げている。教員自身がその点に気づく必要がある。
- ⇒行動を見る際には「危険だから」「楽だから」といったバイアスがかかっていないか意識する必要がある。バイアスを取り除かないと、安易に車移動を選んでしまうことにつながる。

#### 【安全管理 G】

- ⇒防災訓練を地域の方に見てもらい、支援学校が避難場所としても活用できることを知ってもらいたい。
- ⇒学校の防災訓練に地域としてどのように関わればよいか分からないという声がある。以前、訓練に参加した際に「自治会として参加するメリットはないのでは」という意見が出たこともあり、そのようにならないように工夫が必要。
- ⇒学校はそもそも地域から見えにくい存在であるため、学校側から積極的に発信していく必要がある。
- ⇒地域と学校はまず「互いを知るところ」から始めるべきであり、支援学校側が地域の訓練に突然参加すると混乱を招く恐れがある。
- ⇒学校の訓練は、災害対応（地震等）と不審者対応の両方を実施している。
- ⇒立川の事件のように、開かれた学校づくりを進めようとしても事件を契機に閉鎖的になることがある。だからこそ、地域と繋がる必要性がある。

・ 防災訓練を地域に公開し、避難所としての役割を周知したいとの説明。

・ 委員より

⇒地域住民が参加する際にメリットを感じられる形にする必要がある。

⇒学校から積極的に情報発信をしていくことが求められる。

⇒地域と学校がお互いに理解し合うことから始めるべき。

#### 【学部取組】

- ⇒小学部では昨年度は「てぶくろの会（読み聞かせ）」を高学年対象で実施したが、今年度は低学年にも広げ、公民館と協働で行えることになった。

⇒特別支援学校のセンター的機能は「地域の学校を支援する」という一方向だけでなく、双方の関わり合いができるとよい。

⇒個別教育計画の作成のプロセスは、全学部同じなのか。

☞個別教育計画の作成プロセスは全学部で共通しており、①担任がたたき台を作成→②学部長が確認して担任が修正→③担任と保護者面談→④保護者の願いを受けて再度修正、という流れになっている。

⇒個別教育計画の負担がすごそうだが、教育委員会でプロセスが決められているのか。

☞作成プロセスの負担は大きいですが、教育委員会で統一されているわけではなく学校ごとに違いがある。大変さはあるが、根拠にもなり重要な取組である。

⇒個別教育計画では「できたこと」が可視化されていると保護者にとって嬉しい。複数の支援者が関わるため主観に偏らず、共通理解のための軸が見えることが望ましい。半年ごとの見直しだけでなく、どのようなきっかけでできるようになったのかが見えると、支援の輪を広げやすい。

⇒企業では PDCA サイクルを重視するが、計画が目的化しないよう注意が必要。小中高で一貫した成長目標が見えにくく、学部ごとに立てられている印象がある。計画作成よりも日々の実践を大切にすべき。

⇒個別教育計画を作成すること自体が目的化している課題もある。これまで全員で確認・検討を行ってきたが、今後は分担方式も検討できるのではないかな。

4 切れ目ない支援部会について

⇒切れ目のない支援部会の活動について委員に向けて連携支援 GL から投げかけがある、という想定でよいのか。自分たちが自分事としてやっていくには具体的に提案をもらった方がよい。

5 不祥事ゼロプログラムについて

- ・勤務時間管理や教員メンタルヘルス支援の取組について説明。
- ・委員より以下の意見をいただいた。

⇒教員が安心して元気に働けるように、メンタルヘルスをどのように健全に保つかが重要。

☞勤務時間を PC で管理し、残業数が規定時数を超える職員は産業医につなげる取組を行っている（県の制度）。

☞校内では声を上げられない人も多いため、お互いに声をかけ合うよう常に伝えている。

⇒行動目標は企業と学校で近い部分もあるが、環境や課題が異なるため一律には言えない。

⇒不祥事ゼロプログラムについて、内容を検証する必要がある。実施すること自体で満足しないようにすべき。

|      |  |
|------|--|
|      | <p>⇒個人情報については、正しく理解することが大切。運営協議会のメンバーも、ここで得た個人情報は外に漏らしてはならない。個人情報を出せない考えるのは、理解が誤っている場合がある。</p> <p>⇒昨年度のヒヤリハット件数とその対処内容、さらにそれを受けて今年度の取組にどのように反映されたかまで公表されると有益。⇒実施だけで満足せず、検証が必要。</p> <p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校で検討したことを今後も相談しながら進める」ことを確認。</li> </ul> <p>7 事務連絡・閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は7月25日（金）を予定。防災訓練への参加を予定している。詳細は後日案内する。</li> </ul>  |
| 会議資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度第1回「学校運営協議会」開催要項</li> <li>○神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則</li> <li>○神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱</li> <li>○学校運営協議会運営計画書      ○令和6年度学校運営協議会 委員名簿</li> <li>○学校教育計画（令和6年度～令和9年度）      ○相模原支援学校グランドデザイン</li> <li>○令和6年度学校評価報告書（実施結果）      ○4年間のロードマップ</li> <li>○4年間目標と1年間の取り組みの内容      ○令和7年度年間行事予定</li> <li>○パワーポイント資料</li> <li>○令和7年度相模原支援学校 学校運営協議会部会設置イメージ（案）</li> <li>○コミスクリーフレット      ○地域にじいろループ      ○学校要覧</li> </ul> |